

本年度の研究の成果

1 実践を通して

- 最初は、ひと・もの・こととのつながりをどうとらえたらよいのか悩みましたが、自分が授業実践を重ねることで分かってきたように思います。金銭教育の意義の理解が深まりました。
- 金銭教育の意味の把握が曖昧であったため、ねらいの設定もあやふやになってしまいましたが、相談させていただく中で、何を学ばせるかを定めることができました。
- 金銭教育についての理解も深まりよかった。児童の心の育成の全般に関わる教育であることを知ることができた。
- 金銭教育とキャリア教育とのつながりが大きいことを学べたことは、個人として非常に有意義だったと思いました。
- 社会の中で生きている人々とのつながりを持っていることに気づかせていくのに、この金銭教育は大変重要であることが私にも分かりました。
- 身近な問題を取り組みながら柔軟に取り組めたのでよかったのではないのでしょうか。
- △全員が実践できてよかったが、他の授業実践が見られなかったのは残念でした。

実践を重ねることで、金銭教育が何か特別な教育ではなく、普段から行っているキャリア教育や道徳教育とつながっていることを理解することができた。これによって、金銭教育に対して柔軟にかつ幅広く取り組むことができるようになった。

2 アンケートを通して（各学年で昨年度の結果と比較して）

- 昨年度との比較を通じて、少しずつ成果が上がってきたように思います。今年の研究を生かして、金銭教育の考え方で学級経営を進めていった成果もあると思います。
- 子どもたちの意識の高まりが感じられた。
- △1～2年というスパンではなく、長い時間をかけて変化をみていくものかと思いました。また、全校的な活動や保護者の意識との関わりも大きいと思いました。
- △長い時間をかけて呼びかけ続ける必要がある主題であると思います。少しずつ変化が見られるので、良い変化を認め、継続した指導が望ましいですね。
- △「もの」についての指導に力を入れれば、もっと“今ほしいもの”についての答えの内容が変わってきたのかなと思う。（6年生は「ひと」「こと」の方面の学習が多かったので・・・。）

少しずつではあるが、ものを大切にすることやひととのつながりをもととすることへの子どもたちの意識の高まりが見られる。金銭教育は、子どもたちの心に訴えかける教育なので、短い期間ではなく、長い時間をかけ、継続して実践を行っていく必要がある。